「感謝の気持ち」と「思いやりの心」を育む

花王グループは、子どもたちが将来にわたって快適な暮らしを自分らしく送り、サステナブルな社会をともに実現できるように「自分の事を自分でできるようになる」「広く社会の事に関心を持ち、自分たちにできることにチャレンジする」この2つの視点でプログラムを用意し、さまざまな次世代育成活動に取り組んでまいります。

本プログラムを通じて、子どもたちには、自分でできる「掃除」のし方を学びながら、「お家のおしごと」をしている家族への「感謝の気持ち」や「思いやりの心」を育んで欲しいと願っています。

花王株式会社

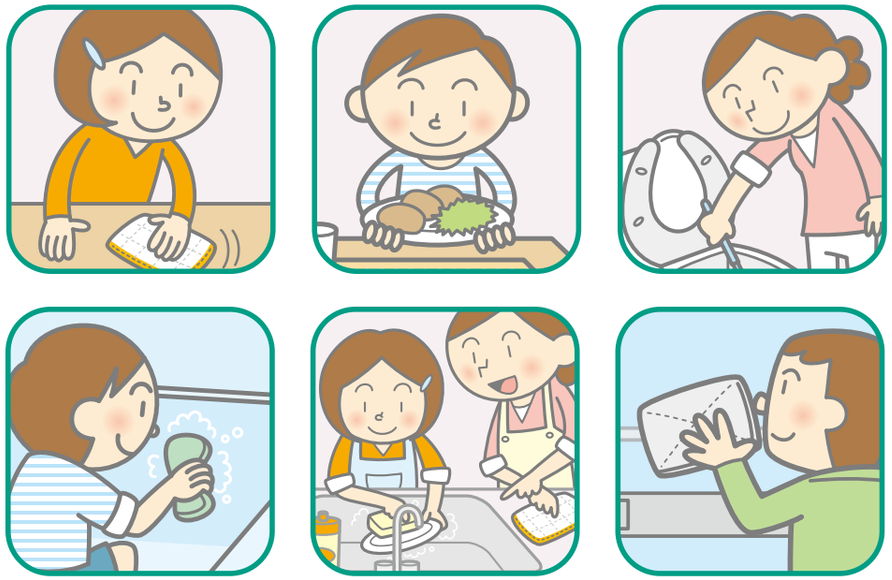
ねん　　くみ

なまえ

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C019247
VEGETABLE OIL INK
発行：2020年3月

※注）休校中の子どもたちが、楽しく学べる様に、冊子をPDF化してお届けします。ご活用ください。

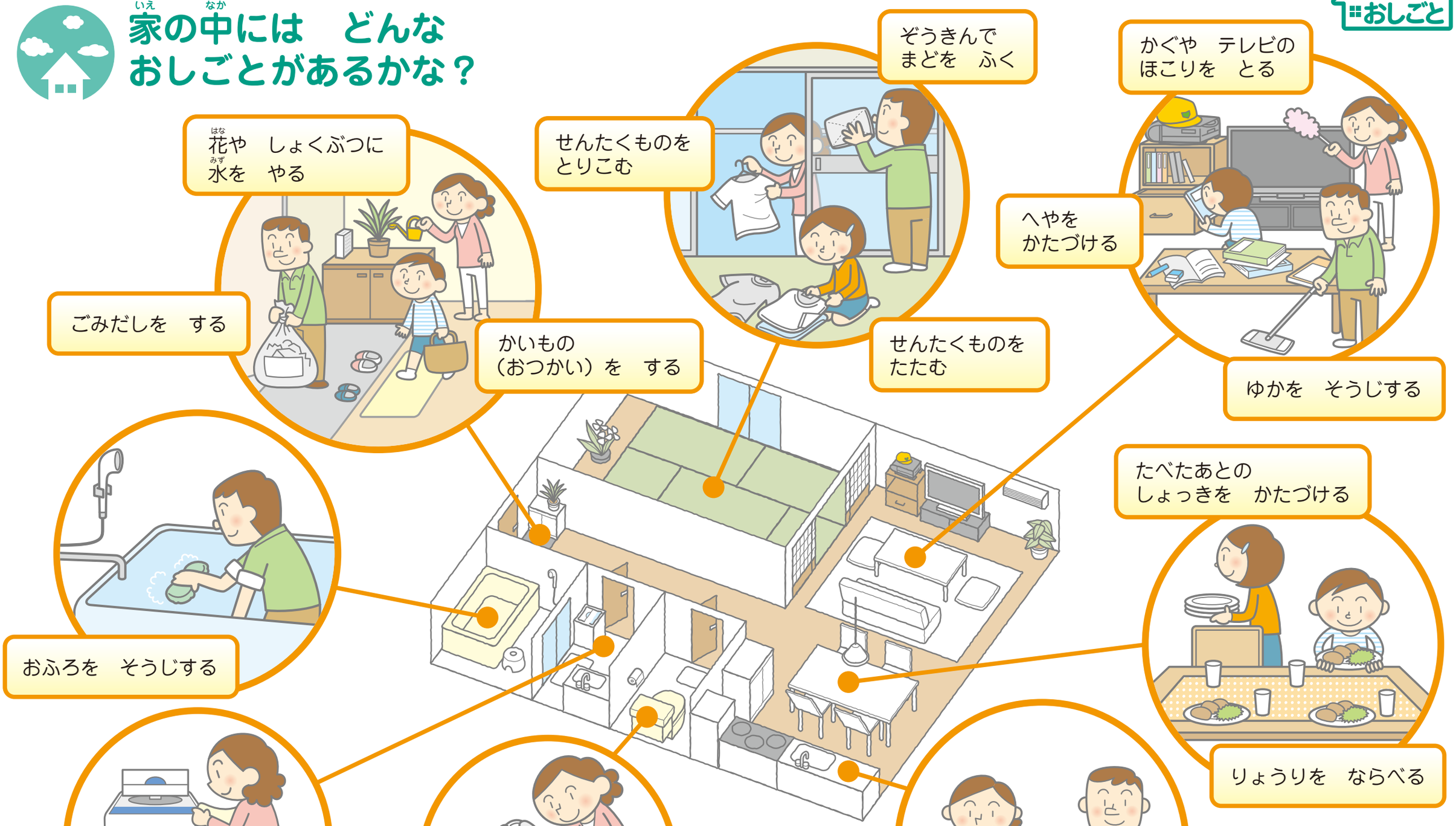
あいうえおそうじブック



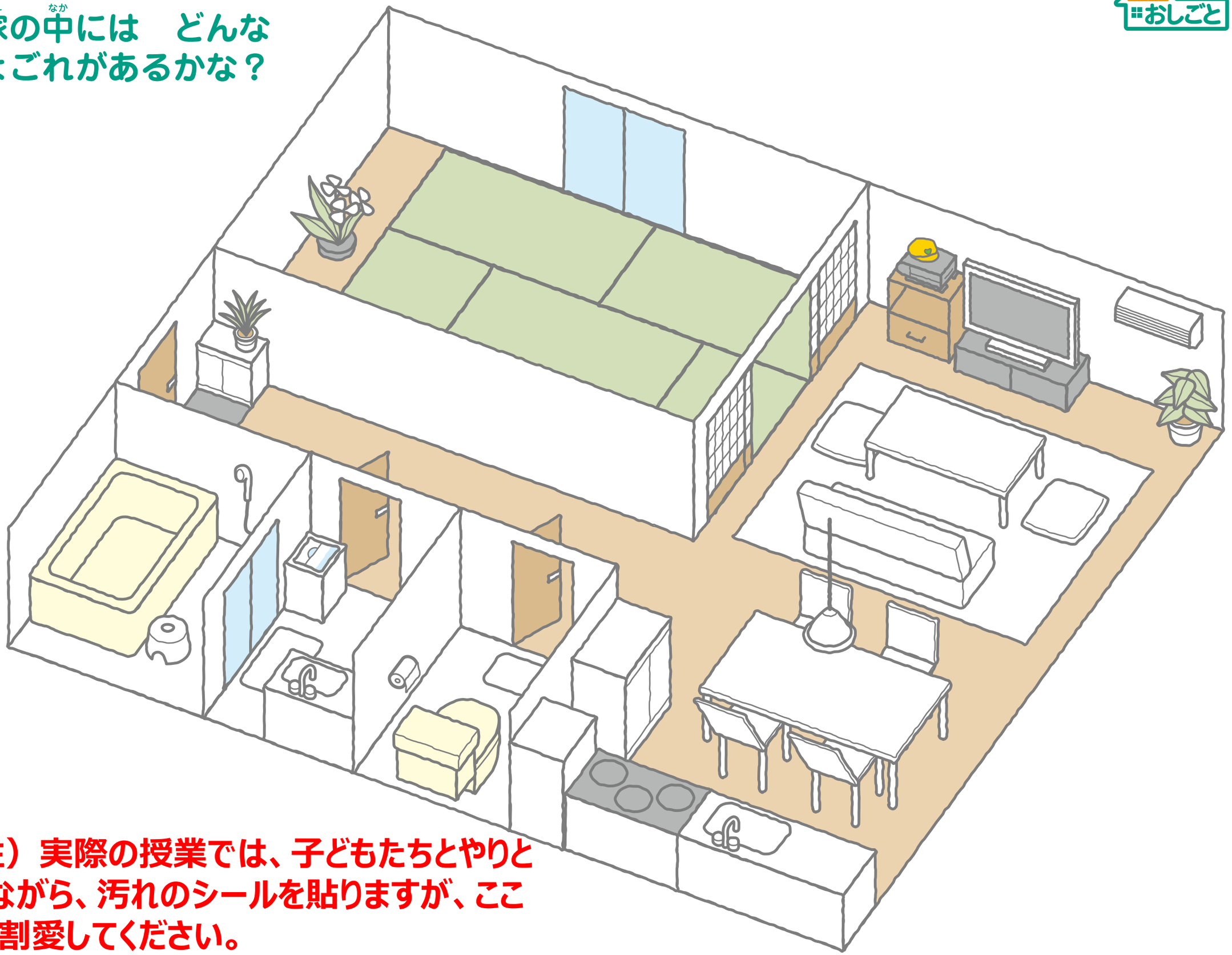
お家のおしごと

※13P14Pの「チャレンジウイーク」を是非ご活用ください。

家の中には　どんな　おしごとがあるかな？



家の中には　どんな よごれがあるかな？



※注）実際の授業では、子どもたちとやりとりしながら、汚れのシールを貼りますが、ここでは割愛してください。

家のおしごとについて かんがえてみよう！

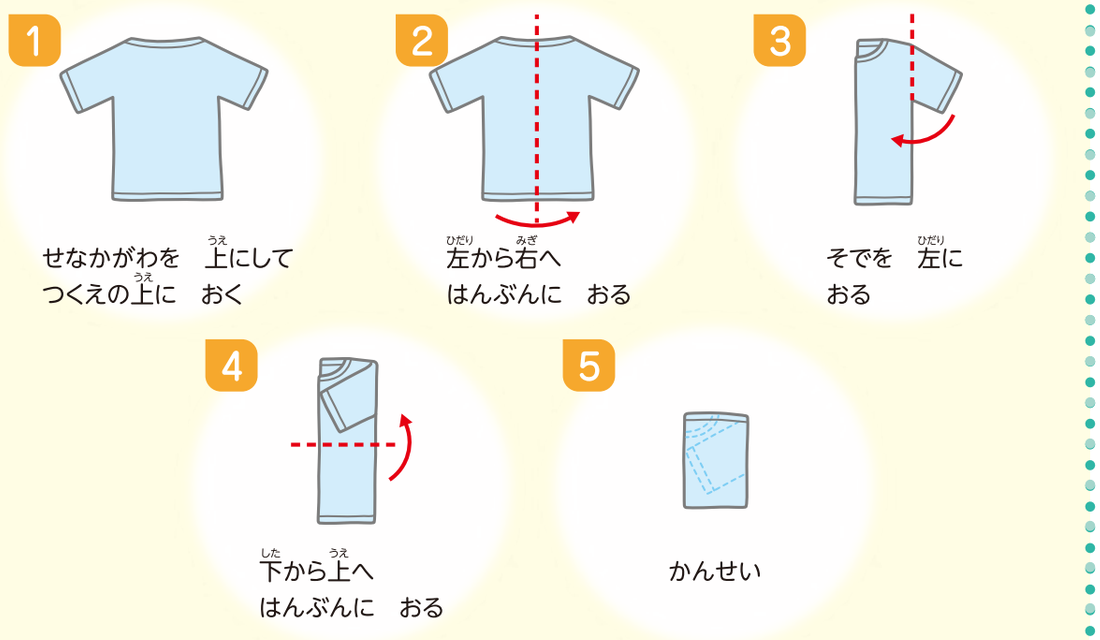
●家のおしごとは だれがしてくれているのかな？
●家の おしごとをしないと どうなってしまうかな？
●へやや みのまわりが きれいだと どんなきもちに なるかな？
　みんなで 家のしごとについて かんがえてみよう！

家のおしごとは　なぜするの？

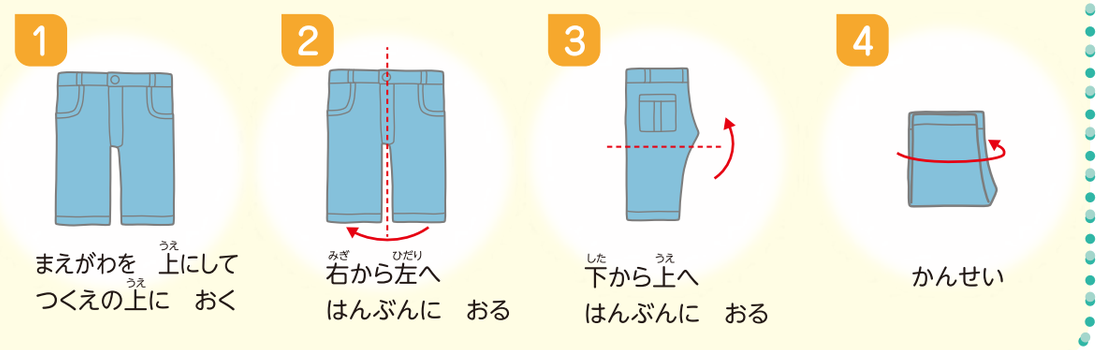
〈チャレンジ・ウィーク〉のヒント
いろいろな　家のおしごと 1

せんたくものたたみ

シャツの たたみかた



ズボンの たたみかた



〈チャレンジ・ウィーク〉のヒント　いろいろな　家のおしごと 2

お家のおしごと

おそうじの　きほん

きほん 1

**おそうじのまえに　まどをあけ
かたづけから　はじめよう！**

ほこりが　へやにまわないように
まどを　あけてから　おそうじスタート！
おそうじの　じゃまにならないように
かたづけから　はじめよう！

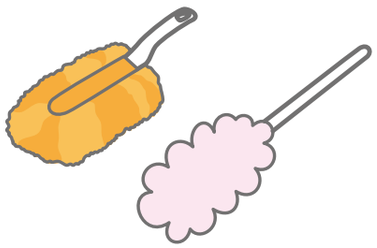
きほん 2

おそうじは「上から下へ！」

ほこりは　上から下に　おちるので
たななどの高いところからおそうじ
をはじめよう！

へやそうじ

**ハンディ
モップ・ワイパー**



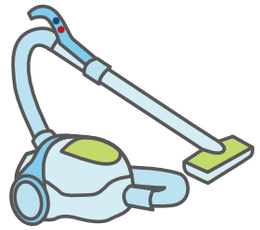
かぐのすきまや　まどのブラインド　しょうじ
ほんだなの上など　目に見えにくいところにも
ほこりがあるよ！

※ほこりが　目にはいったり　からだにかかったり
しないように　きをつけて　つかおうね！

**フロア（ゆか）
モップ・ワイパー**

ほこりは　すみにたまりやすいので
へやのすみや　かぐの　下まで
しっかり　きれいにしよう

そうじきは　ゆかや　たたみの　めにそって
ゆっくり　ぜんごに　うごかすのがコツ
つよくあてると　かべや　かぐに
きずがつくので　ちゅういしよう



そうじき

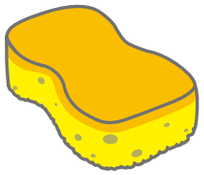
げんかんそうじ

ほうき・ちりとり

ゴミを　とばさないように
ほうきは　はねあげないで　つかおう
ちりとりは　うしろに　ずらしながら
ゴミをいれていくと　うまく　いくよ！

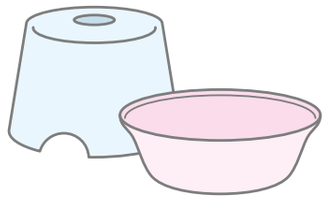
おふろそうじ

おふろよう
スポンジ

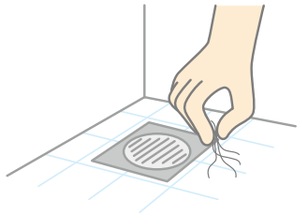


おふろよう
せんざい

よくそうのうちがわに　ついた
ゆあか(ぬるぬる・ザラザラよごれ)を
こすって　おとそう



ゆか　かべ　せんめんき
おふろのいす　などについた
カビやぬるぬるを　こすっておとそう



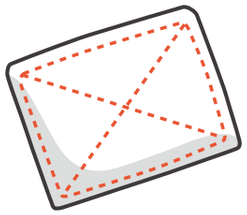
かみのけも　しっかりとろう

シャンプーや　リンスの　ようきや
おいてあったたなも　きれいにあらって
ならべれば　きもちがいいよ！

せんざいを　つかうときは　お家(うち)の人(ひと)と　いっしょにつかおう

トイレそうじ

トイレブラシ

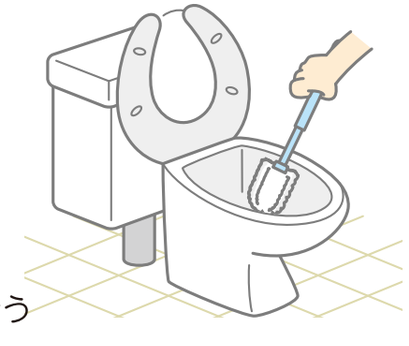


ぞうきん・
トイレシート

トイレよう
せんざい

べんきのふちや　べんざは
ぞうきんや　トイレシート
などをつかって
よごれを　おとそう

べんきのそとや　ゆかに
とびちったよごれや
ほこりは　ぞうきんや
トイレシートを　つかって
きれいに　ふきとろう

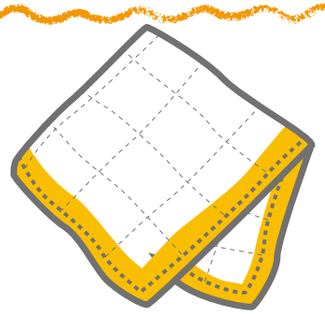


べんきの中(なか)は
トイレブラシを
つかって
よごれをおとそう

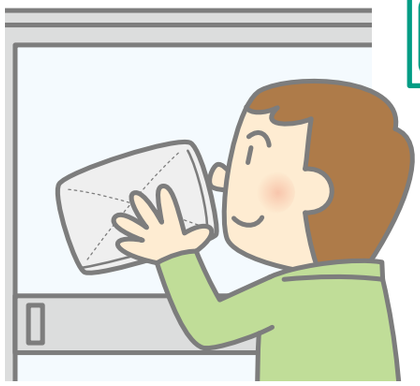
ふきそうじ

●だいふきんとぞうきんは　つかうばしょが　ちがうよ！●

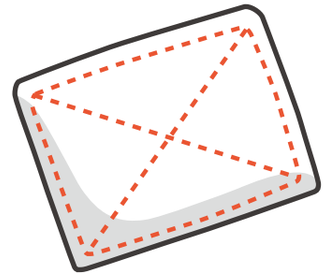
だいふきん



つかうばしょ：キッチンや　リビングのテーブルの上



ぞうきん



つかうばしょ：まど　トイレ　ゆか

水がよくしぼれる しぼりかた

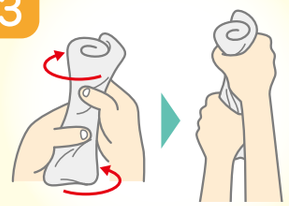
1

ぞうきんを　ぼうのように
おりまげ　たてにする

2

りょう手で　ぞうきんの 上と下をもつ
（りょう手のおやゆびが
じぶんのほうへ　むくようにする）

3



手くびをうちがわに
ひねりながら、
うでを前におしだす

4

かた手をはなし、りょう手の　おやゆびが
じぶんのほうへ　むくように　もちなおし
水が　出なくなるまで　しぼる

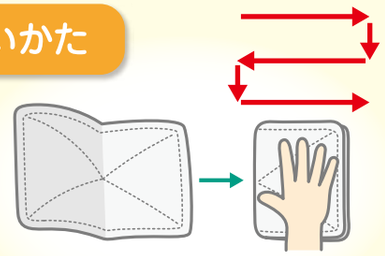
水があまりしぼれない しぼりかた

まるめてしぼる

横向きにしてしぼる

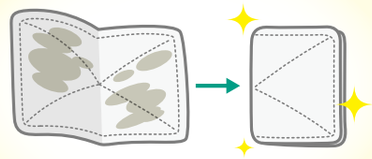
つかいかた

1



ぞうきんを　手の大きさぐらいにおって
上のあかいやじるしのように
はしから　はしまで　のこさずふく

2



よごれたら　めくって
きれいなところを　出して　ふく

あらいかた

1

バケツの水の中で
ちいさなごみを　おとす

2

ぞうきんを
りょう手で　つかんで
こすりあわせて　よごれをとる

3

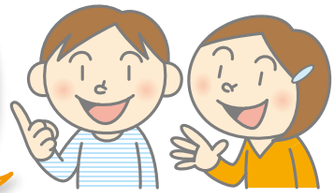
よごれがとれたら
水を　しぼる

ふきそうじは　せいけつなどうぐをつかってやろうね　　おそうじシートをつかって　ふきそうじをすることもできるよ

チャレンジ・ウィーク

いろいろな　家のおしごとに　チャレンジしよう！

いままでやっていた　おしごとに“○”
こんかいチャレンジするおしごとに
“◎”を　つけよう！



お家のおしごと

いままでやっていた おしごとに “○” を　つけよう	こんかいチャレンジする おしごとに “◎” を　つけよう		きちんと　できたら　お家の人と　いっしょに　いろをぬろう！
		へやを　かたづける	5回　10回
		かぐや　ほんだなの上のほこりを　とる	5回　10回
		ゆかを　そうじする	5回　10回
		ごはんの　まえや　あとに　つくえを　ふく	5回　10回
		しょっきを　あらう	5回　10回
		りょうりを　ならべる	5回　10回
		たべたあとの　しょっきを　かたづける	5回　10回
		おふろを　そうじする	5回　10回
		トイレを　そうじする	5回　10回
		げんかんの　くつを　ならべる	5回　10回
		せんたくものを　たたむ	5回　10回
		かいもの（おつかい）を　する	5回　10回
		花や　しょくぶつに　水を　やる	5回　10回

いろいろな　家のおしごとに チャレンジしてみて　おもったことや くふうしたことを　かこう！

お家の人からの メッセージ

お家の方へ

お手伝いが子どもの心を磨き上げる

「生活が子どもを陶冶する」

18世紀に活躍したスイスの教育学者ペスタロッチが残した言葉です。彼は愛情と創意に満ちた家庭生活こそが、賢く情緒豊かで正しい行ないが出来る子どもを育て上げるのに、必要にして十分なものだと主張しました。

今日の学校教育の原型は、この時期にヨーロッパで生まれます。新しく生まれる学校でどのような教育を行うべきかという議論の中で、ペスタロッチは書物のみに頼る教え込みの教育を批判しました。そして、具体的な体験を足場に子どもの考える力や感じる心をその内側から磨き上げるべく、生活による教育を学校の中心に据えることを提唱したのです。

残念ながら大勢は書物教育へと流れますが、ペスタロッチの生活教育を支持する人たちも数多く現われ、世界各地で豊かな実践を生み出していきます。遊びと暮らしを拠り所に子どもを育てる幼稚園も、こうした教育運動の中から生まれた教育機関の一つです。

さらに200年の時を経て、生活を教育の原理とした教科が日本に誕生します。平成元年に創設された生活科です。生活科はその名の通り、子どもが生活を「する」ことによって自らを磨き上げていく教科なのです。

苦労と工夫を要する本格的なお手伝いを

お話してきたような筋道で子どもを育て上げていくには、家庭の暮らしの中で子どもたちに「仕事」を経験させる、つまりお手伝いの機会を提供することが望まれます。もちろん、お手伝いといっても教育の一環ですから、何でもいいというわけにはいきません。

まず、子どもが身体と頭を精一杯働かせてなんとか成し遂げられるくらいに、本格的なものであることが大切です。子どもは苦労し、時には失敗さえ経験しますが、そこを自力で乗り越えてこそ賢くたくましく成長するのですし、自信を高めると共に他者のためになれた自分を誇りに思い、いよいよ自分を好きになるのです。また、振り返ってこんな大変なことを毎日当たり前のようにしてくれていた家族に感謝し、尊敬し、自分もそのようになりたいとあこがれるのです。

私は小4から石炭での風呂焚きをやらされていましたが、石炭に点火するには空気の流れをよく考えないといけません。丁寧に観察してあれこれ試行錯誤しましたし、煙突の働きを知って感動したりもしました。父親の帰宅時間から逆算して火の強さを加減し、うまくいくと小躍りして喜んだものです。苦労や工夫は懸命な思考、持っている知識を存分に駆使することを求め、さらに持っていない知識や技能の獲得を自然な形で促すのです。

お掃除を通して子どもが学び取るもの

悩ましいのは、便利な道具の普及や技術革新に伴い、家庭の中にそういった仕事が少なくなっていることです。今や風呂焚きは指一本、スイッチを押すだけです。簡単に成し遂げられはしますが、苦労や工夫の余地のない分、学びや成長、感動も少ないのです。

そんな中で、毎日のお掃除は相変わらず大変な仕事です。苦労も多いですが工夫の余地も大きく、よく考えて上手に進めることで、家の中を手早く綺麗にすることができます。日々の美しい生活環境と、それを自らの力で整える習慣の形成は、美しい心、丁寧な生き方が育つ何よりの基盤でしょう。

家族と一緒に取り組める点、その都度コツや理由を教わりながら進められ、楽しく会話がはずむあたりも実に好都合です。家族と協力して楽しく生活を維持、発展させていく経験は、家事という文化の伝承そのものです。

順序や段取りを考える必要があるのも、計画性や見通しを持つことの大切さを気付かせる点で、優れた教材と言えるでしょう。

このように、お掃除をはじめとするお手伝いには多くの教育的な意義と作用があります。お子さんや他のご家族ともよく相談して、是非やりがいのあるお手伝いに、存分に取り組む機会をご提供ください。

上智大学総合人間科学部教育学科 教授
奈須 正裕（なす まさひろ）氏

1961年徳島県生まれ。
徳島大学教育学部卒業。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。
国立教育政策研究所総括研究官、立教大学文学部教授等を経て、現職。
中央教育審議会教育課程部会生活・総合部会委員、内閣府人間力戦略会議委員等を歴任。
日本生活科・総合的学習教育学会常任理事。

主な著書：「教師という仕事と授業技術」（ぎょうせい）、「学びを深める食育ハンドブック」（学習研究社）、「総合学習を指導できる教師の力量」（金子書房）など多数。